

# 小規模多機能自治と農村RMO

令和5年11月9日

雲南市 板持周治

(政策企画部)

# 小規模多機能自治とは...

小規模ながらも、  
様々な機能をもった、  
住民自治の仕組み

=概ね(小)学校区域  
=分野横断し、統合  
=住民の参画・協働

特徴

## ●協(総)働の仕組み

...市民一人ひとりの力を発揮する仕組み

...自治の原点を取り戻す仕組み

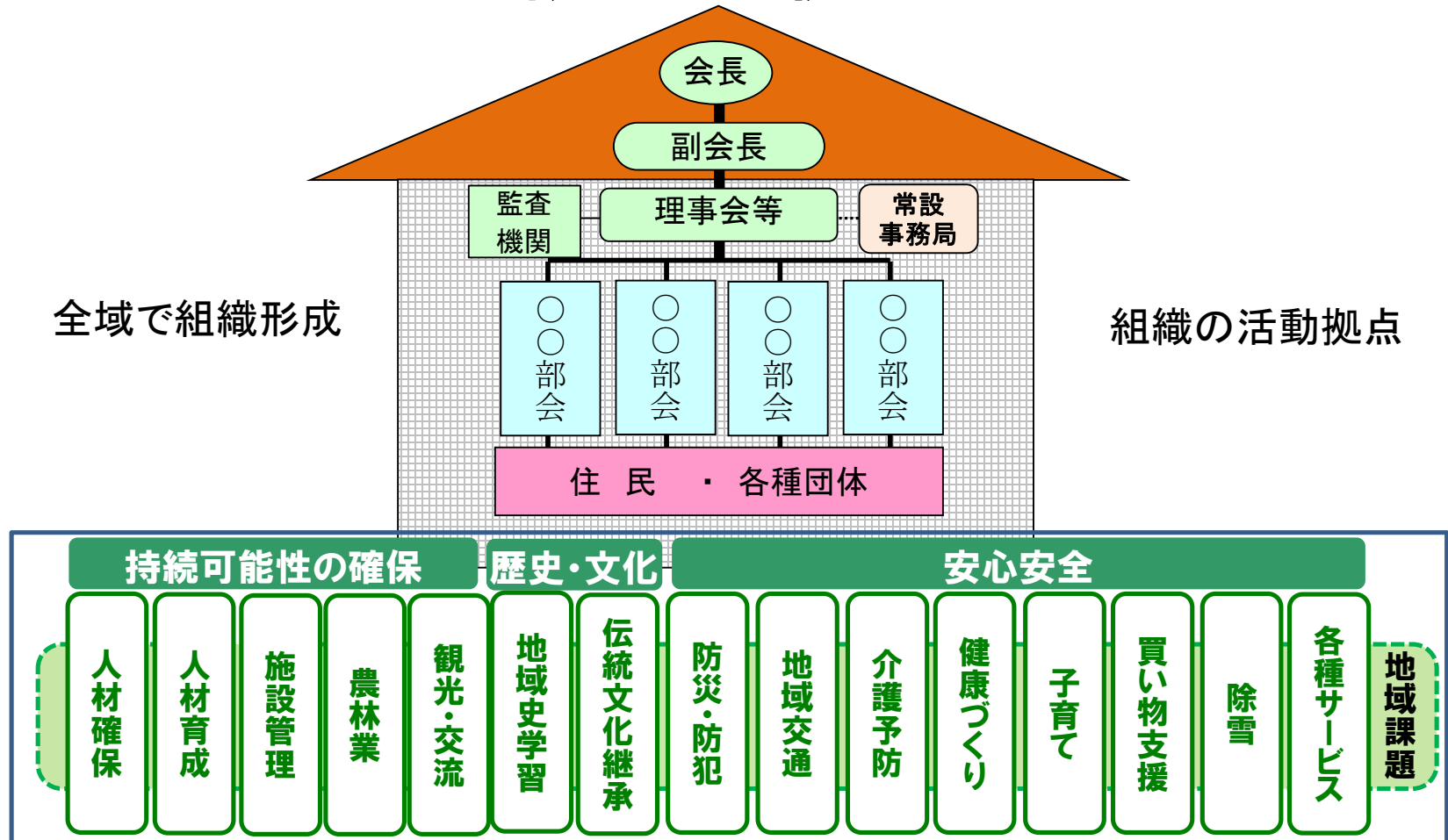
...参加だけでなく、参画につながる仕組み

## ●仕組みとして全域対象に

●人口減・少子高齢化にも対応する仕組み

# 組織 & 拠点施設 & 常設事務局

## ～概ね小学校区～



様々な地域課題を、住民自らが、事業化して解決！

# (参考)R4年度総務省RMO調査結果

※「RMO」=地域運営組織

●回答数 1,730市区町村(回収率99.4%)

- RMOあり 49.3%(853自治体・前年度+39)
- うち全域 34.8%(297自治体・前年度+23)
- うち8割以上 +5.5%(+47自治体・計344)
- うち2割~8割未満 +23.4%(+200自治体)
- うち2割未満 +28.0%(+239自治体)

出典:令和4年度「地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業報告書」  
(平成5年3月・総務省自治行政局地域振興室)

# 小規模多機能自治推進ネットワーク会議

全国的にネットワーク化  
(情報共有・連携)

様々な推進上の  
課題

内的要因

- ・組織づくり策
- ・拠点づくり策
- ・人材確保策
- ・人材育成策
- ・条例整備策 等

外的要因

- ・税制面
- ・財政面
- ・規制面
- ・法人制度 等

状況・  
課題  
の共有

ML情報交換  
ブロック会議

全国の自治体等

- ・取り組んでいる
- ・これから...
- ・関心がある

47都道府県内  
の355会員  
(R5.10.31現在)

H27.2.17  
142会員で発足

うち自治体会員277  
(2県218市57町村)

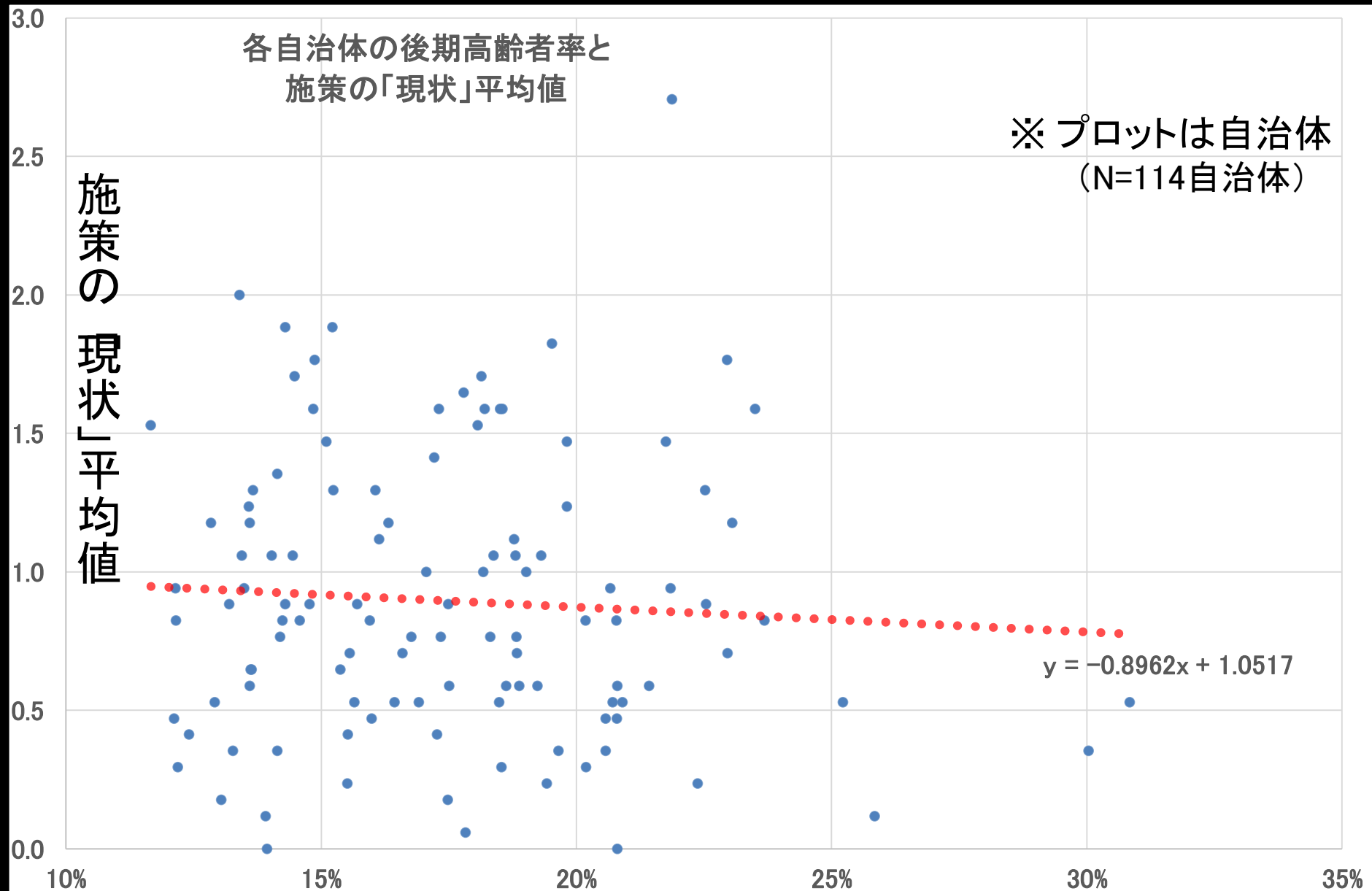
※参考

- ・政令指定都市 7市
- ・中核市 23市
- ・県庁所在地 18市

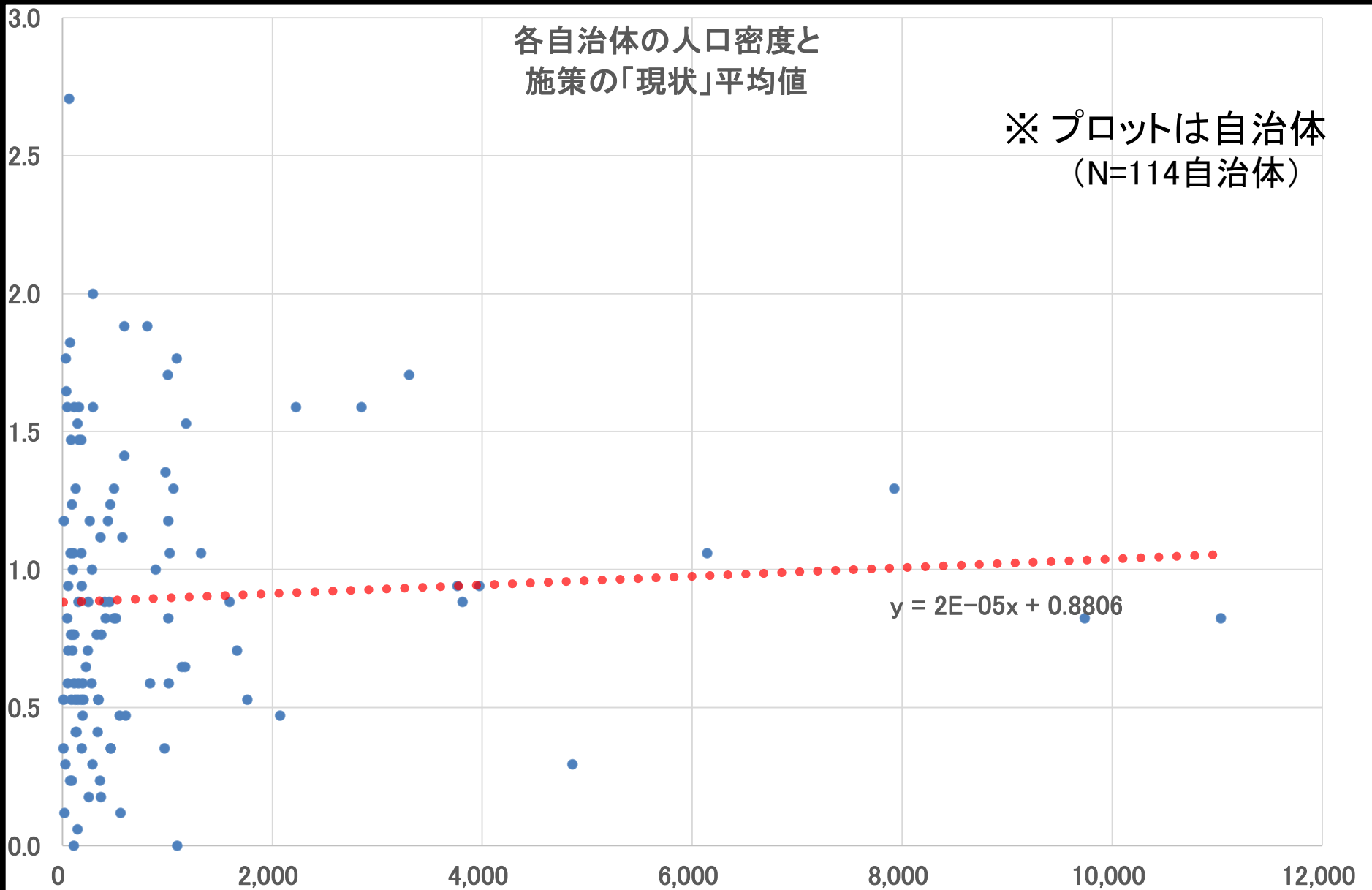
推進

課題への対応策

# (NW会議R4施策調査結果)規模別比較【後期高齢化率】



# (NW会議R4施策調査結果)規模別比較【人口密度】



人口密度

# 原点は「協働」

## 協働の8原則

1. 相互理解と相互補完
2. 対話
3. 対等
4. 目標・取り組む過程の共有
5. 自主・自立
6. 適切な参入機会の確保
7. 情報公開
8. 評価



考え方

“1世帯1票制”

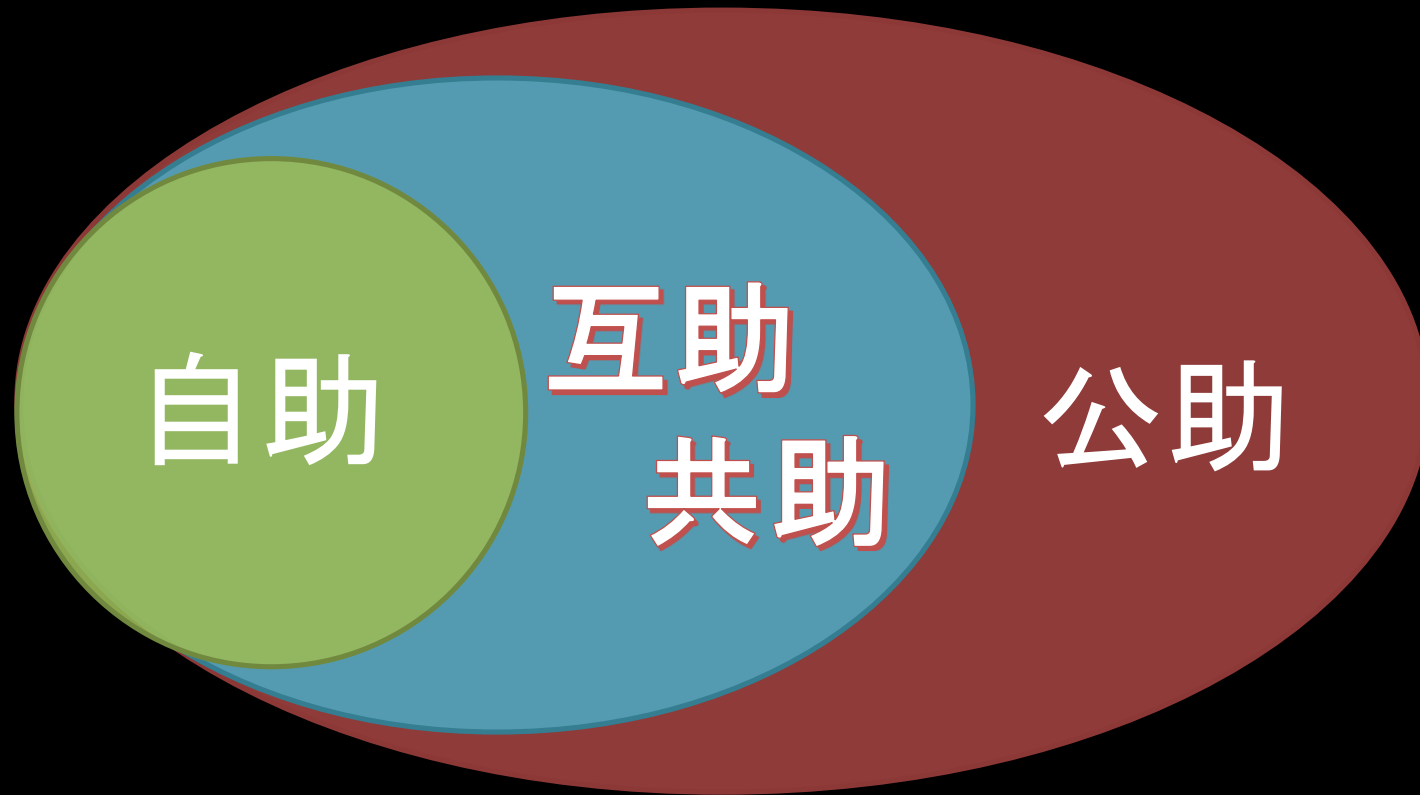
ではなく

“1人1票制”

(一人ひとりが主役)

# 補完性の原則に基づく優先度

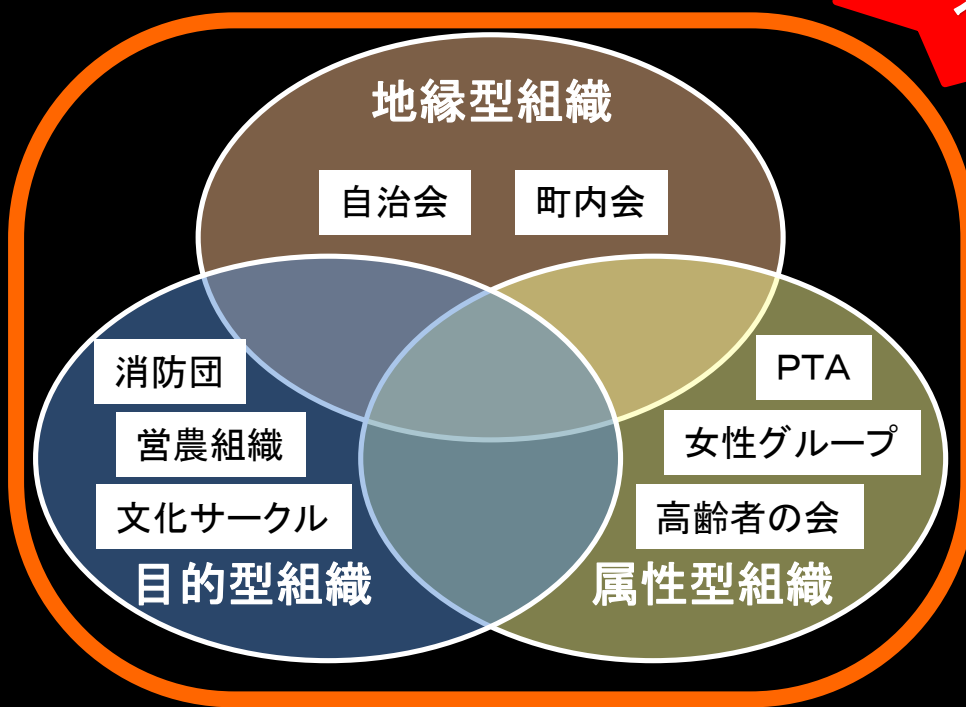
---



小さな単位を優先し、重層的に

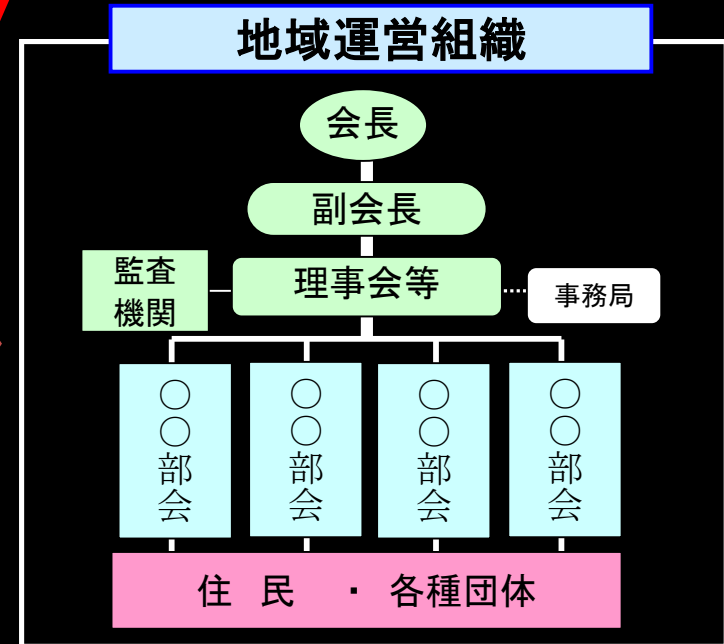
# 地域の総力を結集！

概ね小学校区域で  
あらゆる団体が結集



地域への  
求心力

地域課題を  
自ら解決！



“1世帯1票制”  
ではなく  
“1人1票制”

～考え方～

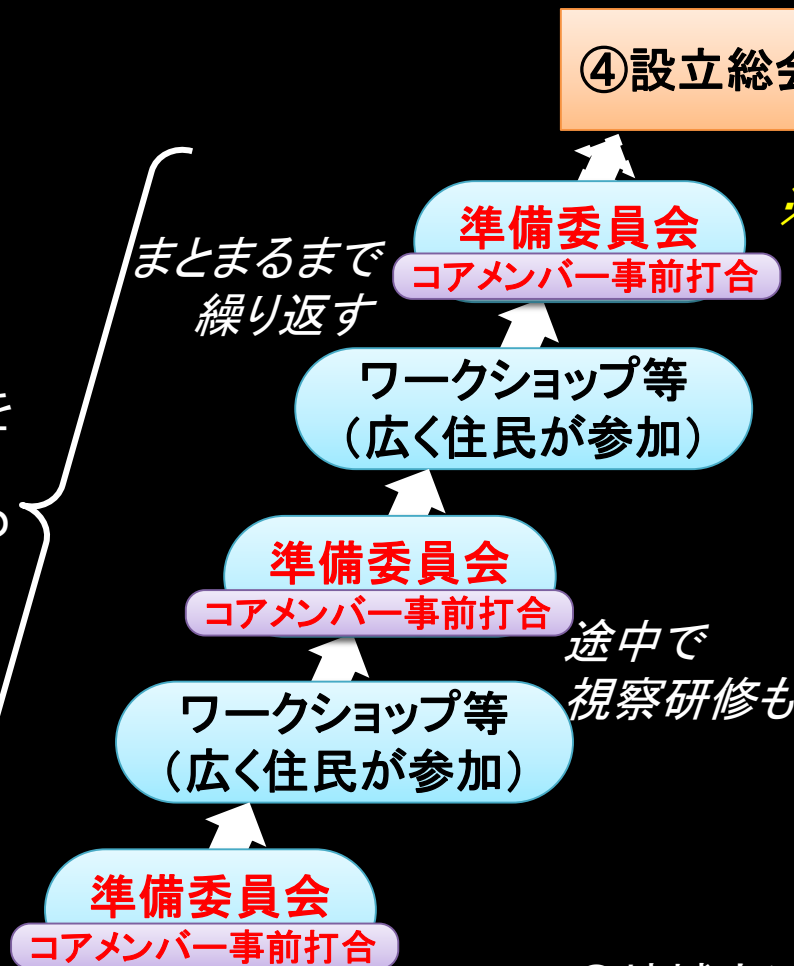
地域の経営体

(住民自治のプラットフォーム)

# 地域運営組織の形成の進め方(一般的な例)

進  
度

③話し合いを  
積み重ね  
一つひとつ  
決めていく



④設立総会

...来賓として首長を招く(推奨)

※合意形成を疎かにしないこと!

＜決めるべき主な事項＞

- ⑨役員選考
- ⑧会則(案)
- ⑦組織名称(公募推奨。地域名必須)
- ⑥当面の事業計画と予算(案)
- ⑤会費等の財源確保
- ④地域の計画(新組織としての)
- ③組織編制(執行、議決、監査)
- ②既存組織、行事の棚卸し
- ①形成を進めることに合意を得る

途中で  
視察研修も

②準備委員会を立ち上げる

- ... ● 地域内に広報紙等で周知
- ... ● 準備委員会の名称にも地区名を!
- ... ● 自治会、各種団体など、主要メンバーで  
(若い世代、女性の参加は必須)

①学習会

# 【雲南市の例】これまでの系譜

進  
度

成熟  
段階

第4ステージへ(持続可能なまちづくり)

R3 連合体の改良、ハラスメント対策

基本協定の改良 & 災害基本協定の締結

H30 合同検討PT報告書 → R1~実行

確立  
段階

第3ステージ(新しい公共の創出と持続性)

H27 基本協定の締結

第2ステージ(活動基盤の強化)

H25 大幅な制度改正(直接雇用・地域福祉の  
一体化・円卓会議方式等)

H24 交流センター3年目の検証

形成  
段階

第1ステージ(基礎的基盤の整備)

H22 拠点施設の整備(交流センター化)と3本柱

H19~20 交流センター構想

H17~19 組織形成

構想・計画期

H16 新市建設計画(合併協)

H15 コミュニティ・住民自治PT(合併協)

時 期

# 小規模多機能自治組織のポイント

---

■地域力(個性)を活かすこと！

■地域の総力をあげて！

...子どもから高齢者まで、性別に関わらず。

■イベント型から課題解決型へ！

※イベントにも、何らかの目的があるはず

■“したいこと”ではなく、“必要なこと”を！

# 「しんね」のまちづくりプラン

やまたのおろち伝説発祥の地「新市地区」の住民が一体となって「安心・安全で笑顔あふれる元気な新市」の地域づくりに動みましょう！

☆新市地区：5自治会  
175世帯  
600名  
(平成25年5月)

## 1. 地域ぐるみで支え合う 仕組みづくりに取り組む！

- ・高齢者にやさしい地域をつくりましょう。
- ・地域の宝の子どもたちを大切にしましょう。
- ・だれにでも安全で安心な地域にしましょう。

高齢化が進んできた！

子どもの数が減ってきた！

基本三つの目標

## 2. 元気で活力のある 地域づくりを推進する！

- ・地域住民がひとつになれる活動に取り組みましょう。
- ・みんなで参加できる楽しい交流活動を工夫しましょう。
- ・地域にある豊かな資源を活かした活動を推進しましょう。

自然災害が心配！



## 3. 新市を愛する心を育む！

- ・新市地区の文化や伝統を知り、大切に受け継ぐ気持ちを育てましょう。
- ・新市の良さを発見し、自覚できる地域づくりを推進しましょう。
- ・地域のみんが、自分の少しの時間と「気持ち」を持ち寄りましょう。

地域に元気がなくなりました！

斐伊川や大野川には自然がいっぱい！

おろち伝説の発祥の地！



子ども園・中学校には子供がいっぱい！

地域自主防災組織や商工会、若者たちが頑張る！



### 「支え合う仕組みづくり」

- ・サロン活動の発展と充実。
- ・災害時の支援体制の確立。
- ・地域自主防災組織の充実。
- ・子育て支援と見守り活動の推進。
- ・世代間交流の推進。
- ・相互扶助の近隣組織の構築。

### 「活力ある地域づくり」

- ・一体感のある地域行事の実施。
- ・世代を超えた交流活動の推進。
- ・新市の地域資源の開発と活用。
- ・住民のアイデアを引き出す施策。
- ・地域の情報の共有と情報発信。

### 「新市を愛する心」

- ・地域に受け継がれた行事の発展継承。
- ・地域行事を一人一人の力で実現。
- ・地域の良さを見つけ広める活動。
- ・地域のための「やる気」を育てる。

☆このプランは、平成25年度から平成27年度までに具現化していきます。

地域自主組織「新市いきいき会」

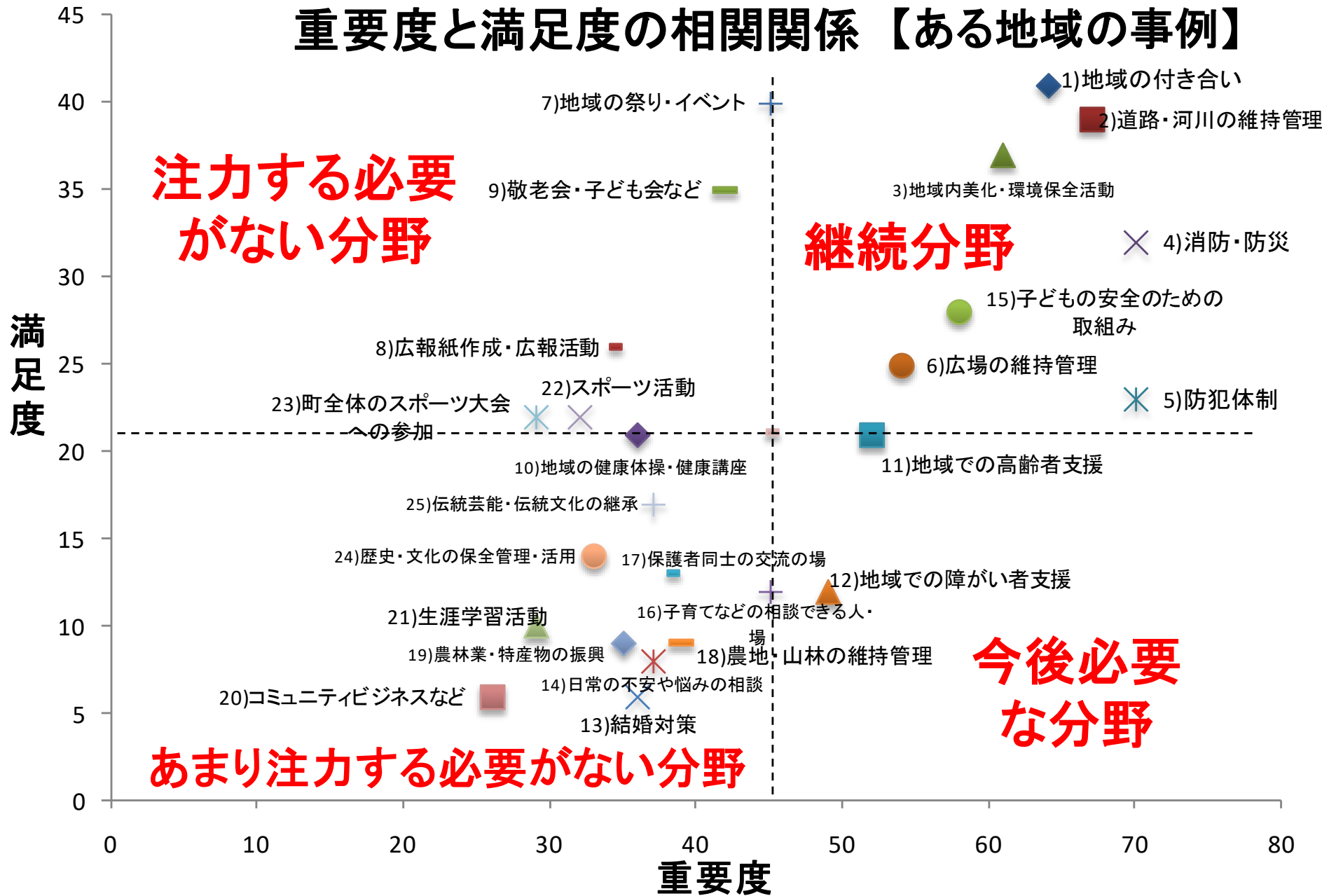
## ＜地域の計画(例)＞

## 新市いきいき会

(特徴)

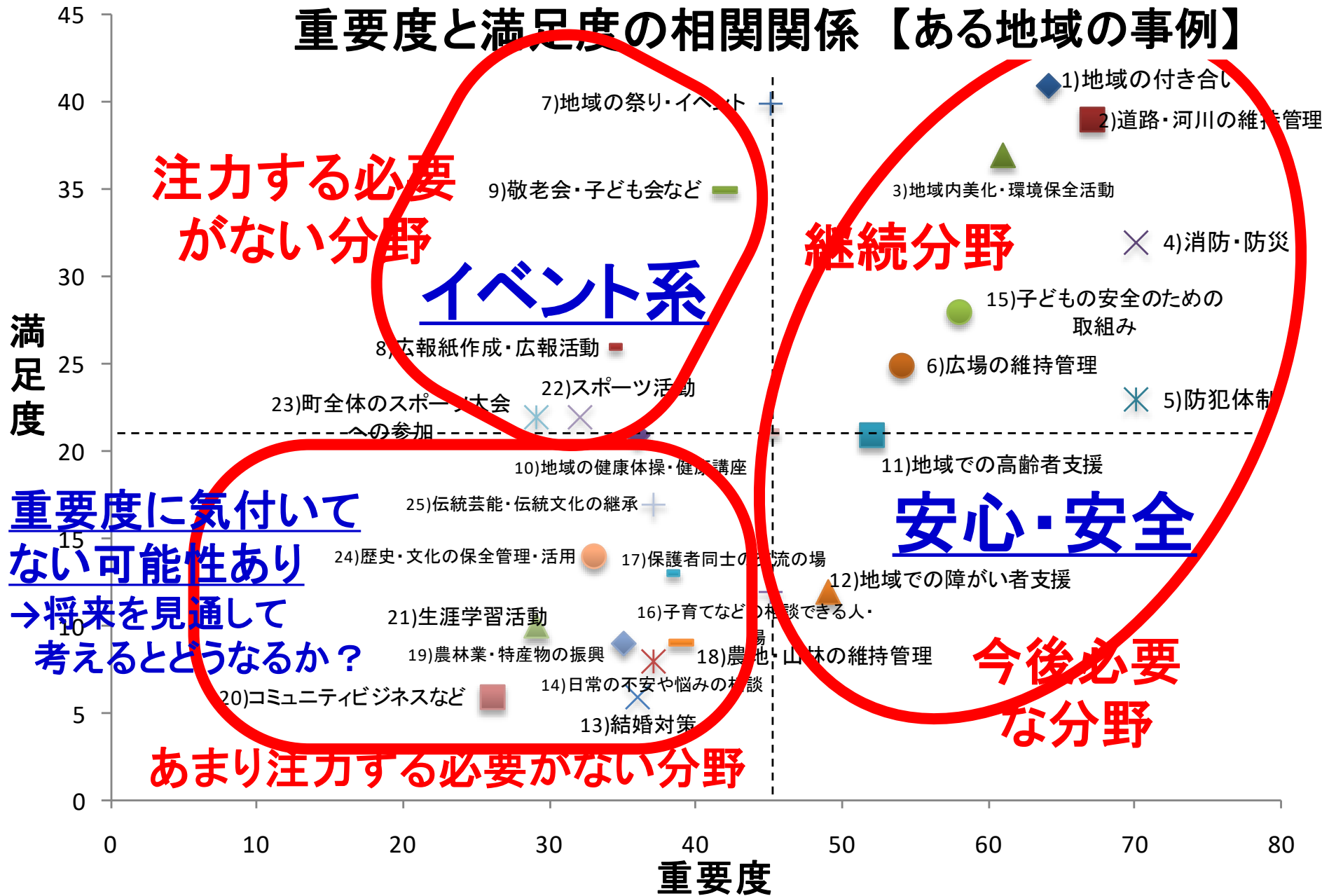
- ・A4で1枚。
- ・目標と方針のみで、明快。
- ・具体的内容は、毎年度の事業計画に反映。
- ・ポスター版も各家庭へ配布。

# 重要度と満足度の相関関係【ある地域の事例】





# 重要度と満足度の相関関係【ある地域の事例】



**重要度**に気付いて  
ない可能性あり  
→将来を見通して  
考えるとどうなるか？

# 地域同士の学び合い・高め合いの場

～ 地域自主組織取組発表会（H24～29）～



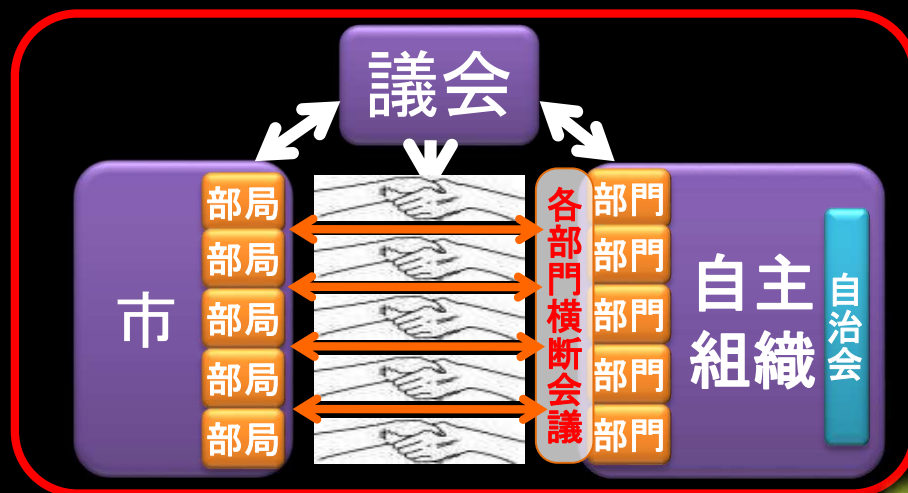
地域の方々が、相互に活動を紹介し合う場  
... 年3回（H27まで2回）に分けて発表

# 地域と行政の協議の場

■平成25年度から、「地域円卓会議」を本格導入

※地域と「直接的に・横断的に・分野別で」協議

(平成25年度からの概念図)



具体的方法

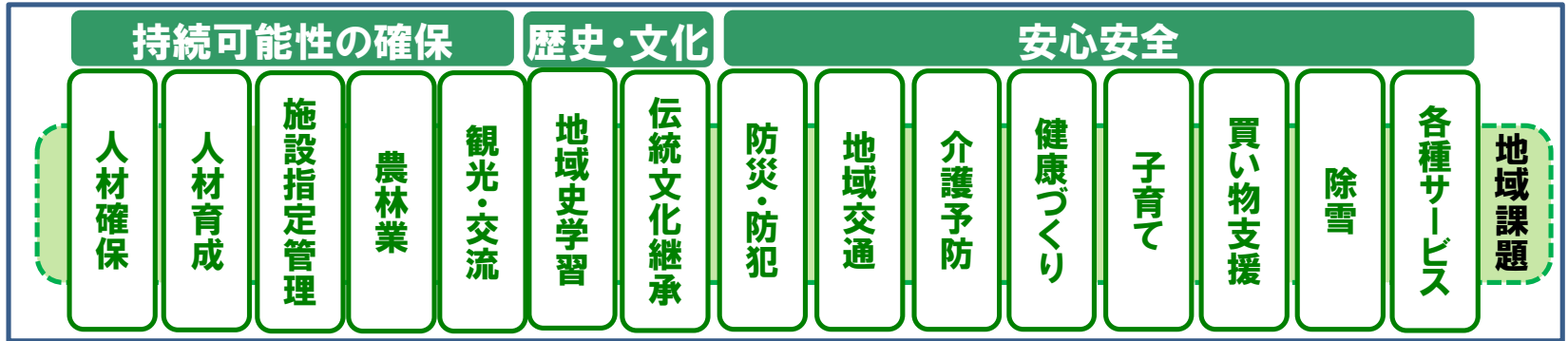
円卓会議方式



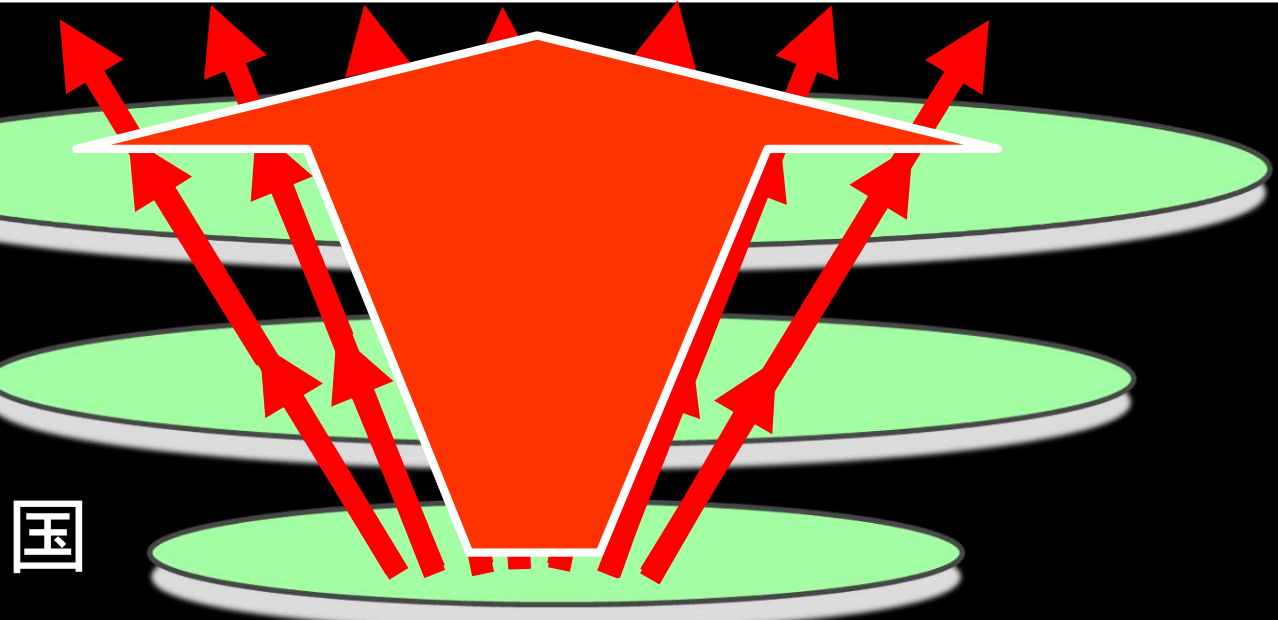
# 分野横断が重要

## 分野横断型の地域経営体(小規模多機能自治組織)

RMO  
横断的  
↑  
↓  
専門的



市町村  
ココが肝！  
都道府県



施策展開

## 小規模多機能自治を導入して良かったと思うこと(所感)

---

- 地域力が向上(地域の主体的行動)。
  - 福祉・防災、文化、子育て、農業...など、多分野に。
  - 災害対応力が飛躍的に向上。
  - 建設的な対話が可能に(住民自治と団体自治)。
  - 企業チャレンジ(連携協定)の増加要因に。
- ⇒協働力が向上し、市全体のまちづくりに波及